

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成23年11月24日(2011.11.24)

【公開番号】特開2010-99201(P2010-99201A)

【公開日】平成22年5月6日(2010.5.6)

【年通号数】公開・登録公報2010-018

【出願番号】特願2008-272509(P2008-272509)

【国際特許分類】

A 4 4 C 5/02 (2006.01)

D 0 4 B 21/00 (2006.01)

D 0 3 D 15/08 (2006.01)

【F I】

A 4 4 C 5/02 E

D 0 4 B 21/00 B

D 0 3 D 15/08

【手続補正書】

【提出日】平成23年10月5日(2011.10.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

本実施例にて、腕章 1 は、図 1 に示すように、収縮時直径（D）及び所定の幅（W）の輪仕立伸縮性腕章とされる。腕章 1 は、図 2（a）に示すように、細長の所定の幅（W0）及び長さ（L0）に裁断された伸縮性素材からなる帯状腕章生地部材 2 の両端を縫製により接合することによって輪状（即ち、円筒状）に作製される。本実施例にて、腕章 1 としての収縮時直径（D）は 8～13 cm、幅（W）は 8～10 cm とされる。ただし、この寸法に限定されるものではない。腕章 1 の表面 1A には、必要な文字、図形、記号等が印刷されている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 1】

次いで、帯状腕章生地部材の少なくとも長手方向上下縁部に、ロック加工 7 及びステッチ加工 8 が施された帯状腕章部材 2 の両端 3、4 を、図 1 に示すように、例えば重ね代（w3）を 5～10 mm 程度として、ステッチ加工 8 にて縫い合わせる。両端の接合縫製加工は、所望に応じて、当業者には周知の種々の方法で行うことができる。この両端接合縫製加工もまた、腕章 1 の幅（W）方向に伸縮可能な縫製方法（糸）を採用する。